

川鍋正敏教授の略歴および業績

1929年10月7日生

略 歴

- 1942年4月 東京高等師範学校附属中学校入学
- 1947年3月 同校卒業
- 1947年4月 成蹊高等学校（旧制）文科乙類入学
- 1950年3月 同校卒業
- 1950年4月 成蹊大学（新制）政治経済学科第三学年編入学
- 1952年3月 同大学卒業
- 1952年4月 立教大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1954年3月 同大学・同大学院修了，経済学修士（立教大学）
- 1955年4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程入学
- 1958年3月 同大学・同大学院単位取得退学

職 歴

- 1956年11月 立教大学経済学部助手
- 1959年4月 立教大学経済学部専任講師
- 1961年4月 立教大学経済学部助教授
- 1965年4月 フンボルト大学（当時の東ベルリン）に留学（1966年3月まで）
- 1969年4月 立教大学経済学部教授
- 1975年4月 立教大学経済学部経済学科長（1977年3月まで）
- 1976年4月 立教大学体育会器械体操部部長（1995年3月まで）
- 1979年4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程前期課程主任（1985年3月まで）
- 1981年12月 文部省学術審議会専門委員（1983年11月まで）
- 1985年4月 立教大学経済学部長，学校法人立教学院評議員（1986年3月まで）
- 1995年3月 立教大学定年退職

学会および社会における活動

経済理論学会幹事，経済学史学会会員，経済学会連合評議員，日本ドイツ友好協会幹事

研 究 業 績

著 書

(単著)

『経済学』玉川大学通信教育部, 1969年3月

(共著)

1. 『資本論講座3』(杉本俊朗・山本二三丸・金子ハルオ・越村信三郎) 青木書店, 1964年4月
2. 『近代日本経済思想史Ⅱ』(関口尚志・大河内一男・大野英二・戸塚秀夫・宮崎義一・正村公宏・内田芳明) 有斐閣, 1971年3月
3. 『経済分析入門』(富塚良三・吉沢芳樹・大木啓次・鶴田満彦・井村喜代子) 有斐閣, 1972年6月
4. 『経済思想の事典』有斐閣, 1975年10月
5. 『「資本論」を学ぶⅢ』(桜井毅・佐美光彦・山田鋭夫・松尾純・木下悦二) 有斐閣, 1977年9月
6. 『資本論体系4』(吉原泰助・和田重司・宮川彰・二瓶剛男) 有斐閣, 1990年4月

編 著

『マルクス経済学の基礎知識』(種瀬茂・深町郁弥・村岡俊三) 有斐閣, 1976年11月

翻 訳

(単訳)

1. H・シャハト著『イギリス重商主義理論小史』未来社, 1963年7月
2. K・マルクス著『「資本論」第2巻第1篇』新日本出版社, 1984年11月

(共訳)

K・マルクス『資本論草稿集4』大月書店, 1978年12月

(監訳)

1. K・ゴスヴァイラー『大銀行, 工業独占, 国家』中央大学出版部, 1979年8月
2. M・ミュラー『「資本論」への道』大月書店, 1988年2月

(閲訳)

K・マルクス著『「資本論」第2巻第2篇』新日本出版社, 1985年11月

論 文

1. 「『固定資本の更新』および『資本主義的生産の制限性』の問題について」
(『立教経済学研究』第12巻第2号, 1958年10月)
2. 「恐慌把握に関する覚え書——いわゆる『内在的矛盾』を中心として——」
(『立教経済学研究』第13巻第4号, 1960年2月)

3. 「恐慌把握に関する覚え書——『資本論』第3巻第3篇第15章をめぐって——」
(『立教経済学研究』第14巻第4号, 1961年2月)
4. 「エンゲルスの『産業循環変形論』について」
(『ドイツ資本主義の史的構造』有斐閣, 1972年3月, 所収)
5. 「『戦後恐慌』の新しい視角」
(『エコノミスト』1973年11月17日号)
6. 「『資本論』と恐慌論の構成」
(『経済』1974年5月号)
7. 「戦後資本主義経済の政策的限界——『スタグフレーション』と『国際協調』——」
(『経済』1988年1月号)
8. 「ソ連は、なぜ、崩壊せざるをえなかったのか」
(『世界文学』第79号, 1994年7月)

そ の 他

久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』全15巻, 大月書店, (1969年3月から1985年9月)
の編集・翻訳に協力